



# カレッジ情報2015

2016. 3. 18(金) 3月号

発行: 秋田県生涯学習センター  
tel: 018-865-1171



## 平成28年度あきたスマートカレッジ学習案内について

平成28年度学習案内の配布を始めました。各市町村教育委員会の生涯学習担当あてに送付しておりますので、入手方法については、そちらにお問い合わせ下さい。

4月23日の総合開講式に続き、5月7日開催「日本近代文学への招待」を初回として、現地学習を含めて合計97講座が生涯学習センターを主な会場に開催されます。

平成28年度学習案内を見る上で注意していただきたいのは、講座番号の付け方が大きく変わったことです。平成28年度は、『あきたふるさと講座』全体にA1～A20、『あきた教養講座』全体にB1～B36などと、通し番号形式で講座番号を割り振っています。講座カレンダーは開催日順に記載されており、必ずしも講座番号順に開催されるわけではありませんのでご注意ください。

平成28年度のプログラムで一番目を引くのは、『クオリティ・オブ・ライフ』でしょう。この講座は「経済・社会」「国際」「安全・安心」「芸術・文化」「心身の健康」「サイエンス」というジャンルを設け、各ジャンルごとに3～4コマをパッケージにしました。パッケージ単位でも、各コマ単位でも申し込むことができます。例えば、「心身の健康」から全コマ、「安全・安心」から2コマ、「経済・社会」から1コマ、計5コマといった受講もできます。みなさんの興味・関心に合わせてお申し込み下さい。

## 平成28年度総合開講式・開講記念講演のご案内

# 4/23(土)

受付	12:30～13:00
総合開講式	13:00～13:30
記念講演	13:30～15:00

記念講演テーマ「グローバル時代における  
わが国の教育の在り方を考える」



講師：秋田県教育委員会 米田 進 教育長

4月5日(火)からお電話での申し込みも受け付けますが、それ以前は、ハガキ・電子メール・Fax・来所による申し込みをお願いします。氏名・受講者番号(受講者番号をお持ちでない方は住所・電話番号)をお伝え下さい。

## 申込先：秋田県生涯学習センター

〒011-0955 秋田市山王中島町1-1 E-mail:sgcen002@mail2.pref.akita.jp  
TEL:018-865-1171 FAX:018-824-1799

カレッジ情報のバックナンバーは、秋田県生涯学習センターWebサイト  
<http://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>からダウンロードすることができます。

## 支え合う文学者たち『種蒔く人』

### ～小牧近江・金子洋文・今野賢三』(G11)

講師：生涯学習センター・シニアコーディネーター 北条 常久



今年は『種蒔く人』1921年(大正10年)の創刊から95年目に当たります。小牧近江は若くして渡仏し、アンリ四世校小学部で小学生と一緒に仏語を学びます。小学部の同級生、ピエール・ド・サン・プリの家族を通じてロマン・ロランと親交を得ます。そして、多くの若者が犠牲になった第一次世界大戦を間近に感じ、帰還兵アンリ・バビュルスが始めた「クラルテ運動(反戦平和運動)」にも共鳴します。さらに、レーニンの第三インターナショナル運動が彼の人生に大きな影響を与えます。その頃の日本では『白樺』全盛期で、金子洋文は武者小路実篤に、今野賢三は有島武郎に熱中しています。ベルサイユ講和会議で通訳を務めた小

牧近江は外務省勤めとなって日本に帰国し、小学校の同級生であった3人の再会は「クラルテ運動」や「第三インターナショナル運動」を紹介する雑誌『種蒔く人』創刊へとつながります。様々なエピソードをまじえた、とても解り易いお話でした。

## 特別講座『いのちの星 地球』

### ～あなたも私も「奇跡の存在」～』(特1)

講師：生涯学習センター所長 一関 雅裕



太陽と地球の「絶妙な位置関係」が生命を生み出す地球環境を作り出し、「水」の存在が生命の源となり、長い年月が生命を育みました。海中の植物プランクトンが酸素を産みだし、酸素が大気に満ち、オゾン層が形成されるようになって紫外線の地表へ降り注ぐ量が減ったことで、生命の上陸が可能になりました。今や地球上は無数の生命に覆われ、あらゆる生命は、系統樹として一つにつながっています。現在までに「地球」のような生命に溢れる星は見つかっていません。様々な「奇跡の集積」があって現在があり、皆が「奇跡の存在」なのです…。

星空を見るたびに、今回のお話を思い出してしまう…、そんなお話でした。

## 特別講座『大正文学史と秋田』

### ～樗陰(ちよいん)・小牧・洋文・賢三らの功績～』(特2)

講師：秋田県立大学 教授 高橋 秀晴 氏



昨今、社会や技術の進歩のスピードは著しく、大学で学んだことが一生通用するような状況ではなくなってきました。したがって、生涯学び続けることが大事になってきており、大学では学び方を教えるように変わってきています。

文学作品も、書かれた時代の社会情勢によって影響されます。大正時代というのは、『中央公論』の編集者である滝田樗陰が世に出した吉野作造の大正デモクラシーを「明」とすれば、小作問題や労働問題などの社会問題の噴出という「暗」を持つ時代でもありました。そうした二面性を背景に、たとえば武者小路実篤は「新しき村」の建設

を試みたわけです。

小牧近江、金子洋文、今野賢三らが創刊した雑誌『種蒔く人』についても時代の文脈の中で捉える必要があります。秋田県には、彼らに関する新資料が多数所蔵されています。夏の講座では、それらの紹介や分析結果についてお話しするつもりです。

来年度の「日本近代文学への招待」の講座が、とても楽しみとなるお話でした。